

林

風

歌集
林風

菊池勇八

短歌新聞社

歌集 林 風

昭和63年9月1日発行

著 者 菊 池 勇 八
編 者 菊 池 建 太

〒350-01 埼玉県比企郡川島町下八ツ林264

発 行 者 石 黒 清 介

印 刷 所 日 本 文 芸 印 刷

製 本 所 菊 川 製 本

発 行 所 短 歌 新 聞 社

〒166 東京都杉並区高円寺南4-43-9

電 話 (03) 312 - 9185番

振替口座 東京 5 - 21683番

定価 2500円

目

次

昭和四十六年	七
昭和四十七年	一六
昭和四十八年	二八
昭和四十九年	四〇
昭和五十年	五〇
昭和五十一年	六四
昭和五十二年	八〇
昭和五十三年	九五
昭和五十四年	一〇九
昭和五十五年	一二三
昭和五十六年	一三四
昭和五十七年	一四八
昭和五十八年	一六一

昭和五十九年	一七
昭和六十年	一八
昭和六十一年	一九
昭和六十二年	二三
あとがき	三三

林 風

昭和四十六年

浜名湖の波に揺れつつ屯する水鳥に今し夕日
映えたり

大方の収穫すみし蜜柑山日ざしかげれば暗緑
となる

暗緑の蜜柑山より幾条もロープが見えて深き
谷間

夕まけて小雨降りいでし県道に砂利かく人等
いまだ帰らず

戦死して夫なきあとの田畑守り働きて来し妹
の病む

橋下の葦も焼かれて黒きなか入間の川の川水
光る

隔日に雨の降る日と降らぬ日とつづきていつ
か若葉せる木々

いささかの田作りやめて苗代を作る苦勞もな
き妻とゐる

色白くわが肖像の画かれて実物より老けしと
妻子らの言ふ

めとるべき息子のをりて新しき居間を造れる
槌音聞ゆ

われよりも若き役場の職員とあらがひし今日
の悔恨一つ

昨日の雨したたか降りてえごの花散り汚れを
りはね土あびて

手術室の妹を待つ時長し外はくろぐろ梅雨深
き空

胆石に長く苦しみ手術終へ眠りつづくる妹あ
はれ

その母にまれに連れられ来し孫のわれになじ
まず歸るはさびし

時折に驟雨もたらず雲飛びて稻田はたえず葉
波をうてり

暑き日に耐へ働きし疲れいでて驟雨しげき日
けだるく籠る

病みやすきわれをかばひて年長く苦勞積みたる妻の白髪

まのあたり原爆ドーム仰ぐ時過ぎし惨禍の胸に迫り来

遠くには漁舟の见えて宍道湖の波静かなり雨にけぶりて

秋づきし丹波の山の栗の毬色づく早しバスに
見て過ぐ

落水期の川葭刈りの戸別役辻に集へり雨合羽
着て

落差なき田川と思へど葭刈れば濁りをあげて
流るる迅し